

第60期

株主通信

2020年4月1日 ▶▶▶ 2021年3月31日

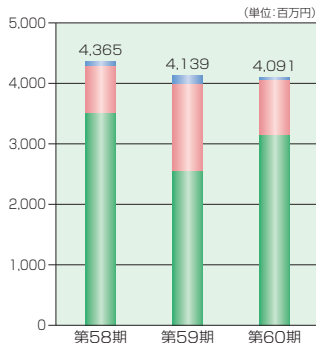


麻生フォームクリート株式会社

証券コード 1730

業績ハイライト

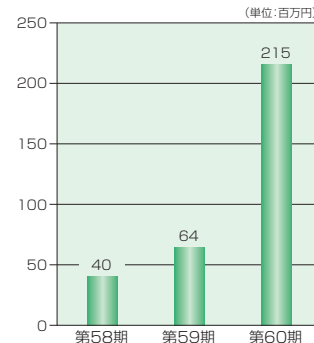
■ 受注高 (単位:百万円)



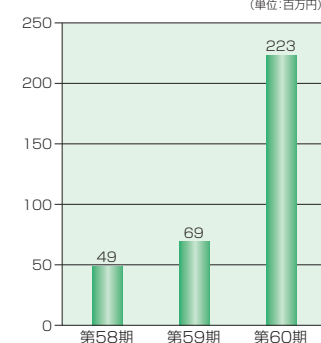
■ 売上高 (単位:百万円)



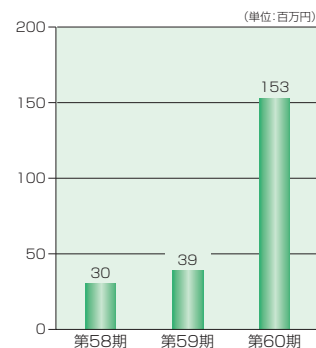
■ 営業利益 (単位:百万円)



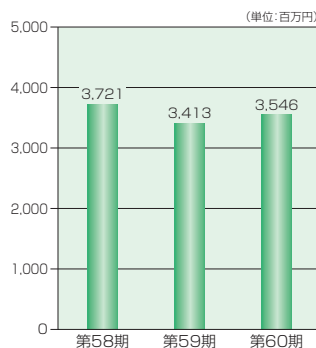
■ 経常利益 (単位:百万円)



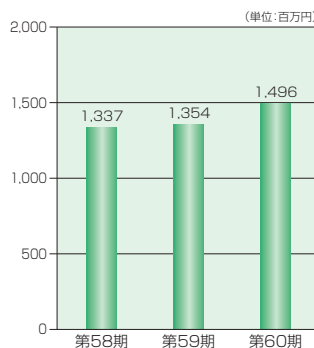
■ 当期純利益 (単位:百万円)



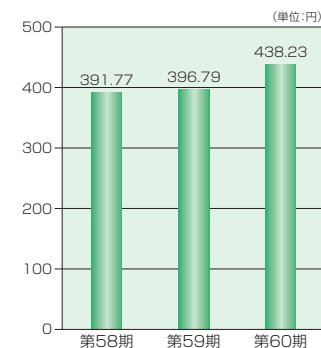
■ 総資産 (単位:百万円)



■ 純資産 (単位:百万円)

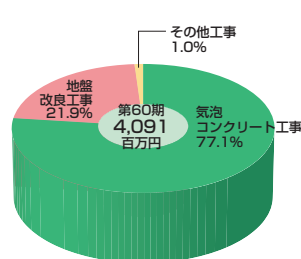


■ 1株当たり純資産 (単位:円)



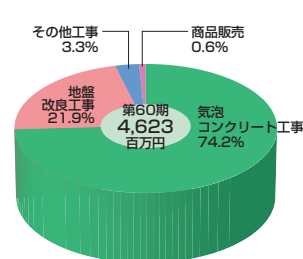
■ 受注高内訳及び構成比 (単位:百万円)

	第60期
軽量盛土工事	1,521
管路中詰工事	646
空洞充填工事	984
気泡コンクリート工事計	3,152
地盤改良工事	897
その他工事	40
計	4,091



■ 売上高内訳及び構成比 (単位:百万円)

	第60期
軽量盛土工事	1,869
管路中詰工事	692
空洞充填工事	868
気泡コンクリート工事計	3,431
地盤改良工事	1,011
その他工事	150
商品販売	30
計	4,623



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

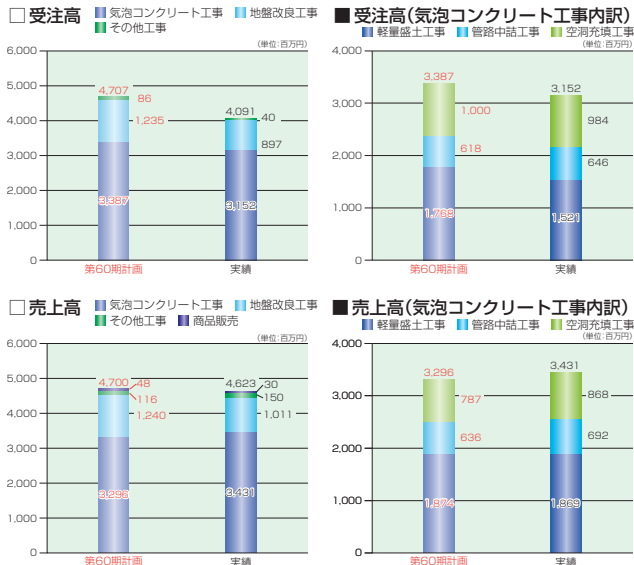
第60期株主通信をお届けするに当たりご挨拶申し上げます。

第60期事業年度におきましては、東日本大震災の復興やオリンピック関連の建設需要が一段落し、また新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による経済活動の制限から民間設備投資が抑制されましたが、都市部の再開事業や地域の防災・減災、国土強靱化工事が下支えし、公共工事の発注は新型コロナウイルス感染症による影響は限定的で、建設業界においては、比較的良好な事業環境が続きました。

このような状況下、民間設備投資の抑制から民間建築分野の受注が傾向的に高い地盤改良工事の受注高が大幅に減少しましたが、公共工事の比率が高い気泡コンクリート工事の受注が順調に推移し、また前事業年度からの繰越工事も多かったことや新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防としての工事の中断や令和2年7月豪雨の影響による工程調整も無事克服し施工出来たことから、売上高はほぼ見込みどおりとなりました。利益につきましては、利益率が高い気泡コンクリート工事の完成工事高の増加や施工効率の向上などにより、当初見込んでいた利益を大幅に上回る結果となりました。しかしながら、受注に関しては前事業年度同様、営業活動に課題が残りました。

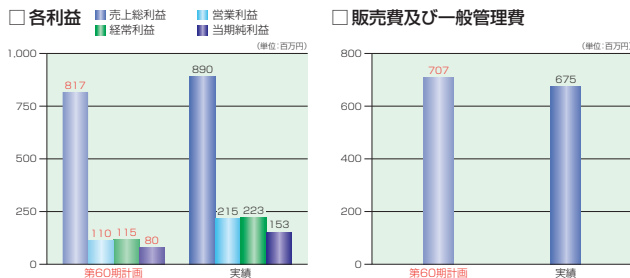
第61期事業年度は、前事業年度から取組んでいる生産性向上のための現場ICT化の実現や、業務効率化のための社内業務システム化による働き方改革の推進をはかり、受注拡大と利益確保に取組んでまいります。また企

■第60期事業の概況



業価値の向上のため、社会・経済の要求に対し安心・安全の確保や地域社会への貢献を念頭に「いいもの」を提供し続けることが大変重要であると考えており、技術開発にも尽力してまいります。

今後とも株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



■次期の見通し

第61期事業年度の建設業界におきましては、堅調な公共投資や成長分野への民間設備投資の回復に期待があるものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては工事の発注や施工に影響が及び懸念があり、先行きは不透明な状況にありますが、当社としましては、新型コロナウイルス感染症の感染予防に引き続き最大限の注意を払うとともに、営業展開の強化をはかり受注量の確保と、施工効率の向上に取組み収益性の改善に努めてまいります。

次期の業績につきましては、主力の気泡コンクリート工事が軽量盛土工事、空洞充填工事を中心に堅調な需要が見込まれることから、受注高5,100百万円、売上高4,900百万円、利益面では労務費や資材価格が上昇傾向にあることや、施工能力強化のための工事部社員の増員計画による人件費の増加、また前事業年度を大きく上回る設備投資計画による減価償却費の増加を見込み、営業利益120百万円、経常利益130百万円、当期純利益90百万円を見込んでおります。

(注) 上記の予想は、本株主通信作成時において入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますことをご承知おください。



代表取締役社長
花岡 浩一

財務諸表（要約）

貸借対照表

(単位：千円)

区 分	第59期 2020年3月31日現在	第60期 2021年3月31日現在	増減額 (対前期)
資産の部			
流動資産	1,787,848	1,889,880	102,032
固定資産	1,625,523	1,657,042	31,519
有形固定資産	1,357,603	1,413,408	55,805
無形固定資産	11,232	7,917	△3,315
投資その他の資産	256,687	235,715	△20,972
資産合計	3,413,371	3,546,922	133,551
負債の部			
流動負債	1,436,250	1,337,713	△98,537
固定負債	622,579	713,200	90,621
負債合計	2,058,829	2,050,914	△7,915
純資産の部			
株主資本	1,360,388	1,496,937	136,549
資本金	209,200	209,200	0
資本剰余金	180,400	180,400	0
利益剰余金	972,341	1,108,890	136,549
自己株式	△1,552	△1,553	△1
評価・換算差額等	△5,846	△929	4,917
純資産合計	1,354,541	1,496,008	141,467
負債・純資産合計	3,413,371	3,546,922	133,551

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位：千円)

区 分	第59期 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)	第60期 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)	増減額 (対前期)
売上高	4,030,373	4,623,870	593,497
売上原価	3,292,879	3,732,932	440,053
売上総利益	737,493	890,938	153,445
販売費及び一般管理費	672,845	675,053	2,208
営業利益	64,648	215,884	151,236
営業外収益	10,804	14,585	3,781
営業外費用	5,601	7,207	1,606
経常利益	69,851	223,262	153,411
特別利益	0	0	0
特別損失	2,022	13	△2,009
税引前当期純利益	67,828	223,248	155,420
法人税、住民税及び事業税	16,503	43,352	26,849
法人税等調整額	11,511	26,277	14,766
当期純利益	39,813	153,618	113,805

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

区 分	第59期 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)	第60期 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)	増減額 (対前期)
営業活動による キャッシュ・フロー	11,426	210,334	198,908
投資活動による キャッシュ・フロー	△136,881	△51,258	85,623
財務活動による キャッシュ・フロー	△85,664	△4,115	81,549
現金及び現金同等物 の増減額(△は減少)	△211,119	154,961	366,080
現金及び現金同等物 の期首残高	719,315	508,195	△211,120
現金及び現金同等物 の期末残高	508,195	663,156	154,961

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(単位：千円)

第60期 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	株主資本										評価・換算差額等		純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金		評価・ 換算差額 等合計
		資本 準備金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計						
					別途 積立金	固定資産 圧縮積立金	繰越利益 剰余金							
当期首残高	209,200	180,400	180,400	24,050	885,000	803	62,487	972,341	△1,552	1,360,388	△5,846	△5,846	1,354,541	
当期変動額														
剰余金の配当							△17,068	△17,068		△17,068			△17,068	
固定資産圧縮積立金取崩						△105	105	—		—			—	
当期純利益							153,618	153,618		153,618			153,618	
自己株式の取得									△0	△0			△0	
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)											4,917	4,917	4,917	
当期変動額合計	—	—	—	—	—	△105	136,655	136,549	△0	136,549	4,917	4,917	141,466	
当期末残高	209,200	180,400	180,400	24,050	885,000	697	199,143	1,108,890	△1,553	1,496,937	△929	△929	1,496,008	

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 第60期決算のポイント

ポイント①受注高

地盤改良工事の受注高は、受注価格競争の激化により見込んでいた大型工事の失注や、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により当社が傾向的に受注比率の高い民間建築分野の発注抑制もあり、前事業年度比37.0%減(計画達成率72.6%)となりました。

気泡コンクリート工事の各工種の受注高は、管路中詰工事が前事業年度比17.4%増(計画達成率104.5%)、空洞充填工事が前事業年度比137.0%増(計画達成率98.4%)となりましたが、軽量盛土工事が見込んでいた一部の大規模工事の受注を採算面の問題から見送ったことなどから前事業年度比4.5%減(計画達成率86.0%)となり、気泡コンクリート工事全体の受注高は前事業年度比23.2%増(計画達成率93.1%)となりました。

ポイント②完成工事高

地盤改良工事の完成工事高は、受注高の大幅減から前事業年度比18.9%減(計画達成率81.5%)となりました。

気泡コンクリート工事の各工種の完成工事高は、前事業年度からの繰越工事が多かったことや、新型コロナウイルス感染症の感染予防のための工事中断や令和2年7月豪雨の影響により一時工程調整に苦慮しましたが、無事施工出来たことから軽量盛土工事が前事業年度比20.1%増(計画達成率99.7%)、管路中詰工事が前事業年度比5.5%増(計画達成率108.8%)、空洞充填工

事が前事業年度比114.7%増(計画達成率110.3%)となり、気泡コンクリート工事全体の完成工事高は前事業年度比31.1%増(計画達成率104.1%)となりました。

ポイント③完成工事総利益率

引き続き施工効率に注力し工期短縮による外注労務費・機材リース料の低減に取組んだことや、地盤改良工事に比べ利益率の高い気泡コンクリート工事の完成工事高の大幅増加と、工事全体の完成工事高に占める気泡コンクリート工事の構成比の上昇により、工事全体の完成工事総利益率が前事業年度に比べ1.2ポイント改善いたしました。

ポイント④営業利益

販売費及び一般管理費において、施工力強化のための工事部社員や技術開発活動を強化するための人材採用による人件費の増加を見込み当初707百万円を計画しておりましたが、計画が未達だったことや、新型コロナウイルス感染症の感染予防策として、不要不急の出張の抑制やリモート会議開催の促進などで交通費や交際費が前事業年度に比べ減少したことなどから、販売費及び一般管理費が計画額に対し95.5%の消化だったこと、また完成工事高の増加や利益率の改善により売上総利益が大幅に増加したことで、営業利益も前事業年度比233.9%増(計画達成率196.3%)となりました。

トピックス

●東京電力(株)福島第一原子力発電所の廃炉プロジェクトへの貢献

廃炉プロジェクトの一部として、1号機使用済燃料プールにおける養生バッグへのエアモルタル充填を行いました。厳しい施工条件下で創意工夫を行い、当社のエアモルタルとグラウト技術で復興に貢献しています。



養生バッグ投入装置の
吊上げ作業



エアモルタルを充填した
養生バッグ

●橋脚を残したまま軽量盛土構造に

橋梁補修において、橋脚や橋桁を残したまま気泡混合軽量土（FCB工法）により土工化することで長期間のメンテナンス費用を低減することができます。インフラの維持補修需要が高まる中、採用実績が増えています。



施工前（橋梁下部より）



施工後（上空より）

●NLG工法の実績を伸ばしています

非エア系グラウト材を使用し、トンネル等の背面空洞や、構造物と地山との空洞の充填を目的に5,000mまで長距離圧送を可能にしたNLG工法。近年、水路トンネルの更新・補修ニーズの高まりを受け、採用実績が増えています。

今後、更なる普及に注力してまいります。



プラント全景



注入状況

●新阿蘇大橋の橋台背面盛土にFCB工法が採用されています

2016年の熊本地震で橋全体が崩落した阿蘇大橋。その後架け替えされた新阿蘇大橋に、橋台への土圧軽減と工期短縮のためFCB工法が採用されました。新阿蘇大橋は、2021年3月に開通しました。当社の提案力と施工技術で早期復興に貢献しています。



新阿蘇大橋の全景

■ 会社概要 (2021年3月31日現在)

会社名	麻生フォームクリート株式会社
本社所在地	神奈川県川崎市中原区苅宿36番1号
従業員数	102名
設立	1961年(昭和36年)6月1日
資本金	2億920万円
事業内容	気泡コンクリートの現場施工 地盤改良工事の施工 その他工事の施工及び工事施工用資材 (起泡剤等)の商品の販売

■ 役員 (2021年6月25日現在)

代表取締役社長	花岡 浩 一
取締役	長谷川 隆 敏
取締役	井上 喜 博
取締役	杉山 嘉 則
取締役	村 関 不三夫 (独立社外役員)
取締役	朝 倉 俊 弘 (独立社外役員)
常勤監査役	阿 部 新太郎
監査役	沼 田 紳 介 (独立社外役員)
監査役	大 瀨 理
監査役	大 木 章 史 (独立社外役員)

● 主な工事経歴

注 文 者	工 事 名
大豊建設株式会社	平井賀大橋床版外工事
ケミカルグラウト株式会社	横須賀火力発電所1、2号機建設工事
清水建設株式会社	新東名高速道路伊勢原北インターチェンジ工事
株式会社大林組	湯浅御坊道路 鳥松山トンネル工事
株式会社ジオダイナミック	新名神高速道路 淀川橋工事 (P13,P14橋脚)



湯浅御坊道路での軽量盛土工事

● 支店・営業所

東京支店	神奈川県川崎市中原区苅宿36番1号
大阪支店	大阪府茨木市沢良宜西4丁目15番14号
福岡支店	福岡県糟屋郡須恵町大字須恵714番地1
札幌営業所	北海道札幌市中央区北一条西16丁目1番地27 北海道たばこ会館ビル4F
東北営業所	宮城県仙台市太白区泉崎1丁目32番20号 プレミア泉崎102号室
東京営業所	東京都千代田区神田駿河台3丁目3番 お茶の水伊藤ビル2F

■ 株式の状況 (2021年3月31日現在)

■発行可能株式総数	普通株式	12,080,000株
■発行済株式の総数	普通株式	3,413,768株 (自己株式6,232株を除く)
■一単元の株式の数		100株
■株主数		1,410名 (うち議決権を有する株主数1,132名)
■大株主		

株主名	所有株式数(株)	所有株式数の割合(%)
株式会社麻生	1,420,000	41.59
株式会社麻生地所	400,000	11.71
麻生商事株式会社	300,000	8.78
宗教法人萬福寺	232,300	6.80
株式会社三井住友銀行	60,000	1.75
株式会社福岡銀行	60,000	1.75
株式会社西日本シティ銀行	60,000	1.75
麻生フォームクリート従業員持株会	41,800	1.22
麻生興産株式会社	40,000	1.17
麻生 泰	40,000	1.17

(注) 所有株式数の割合は自己株式(6,232株)を控除して計算しております。

■ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月下旬

基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
及び特別口座の 三井住友信託銀行株式会社
口座管理機関

郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話0120-782-031 (フリーダイヤル)

○住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

○未払配当金の支払について


株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

■ ホームページのご案内

麻生フォームクリートはホームページ上でも各種IR情報を発信しております。ぜひご活用ください。

<https://www.asofoam.co.jp/>



 **麻生フォームクリート株式会社**

神奈川県川崎市中原区荻宿36番1号

お問い合わせ先 TEL044-422-2061(代表) 財務経理部